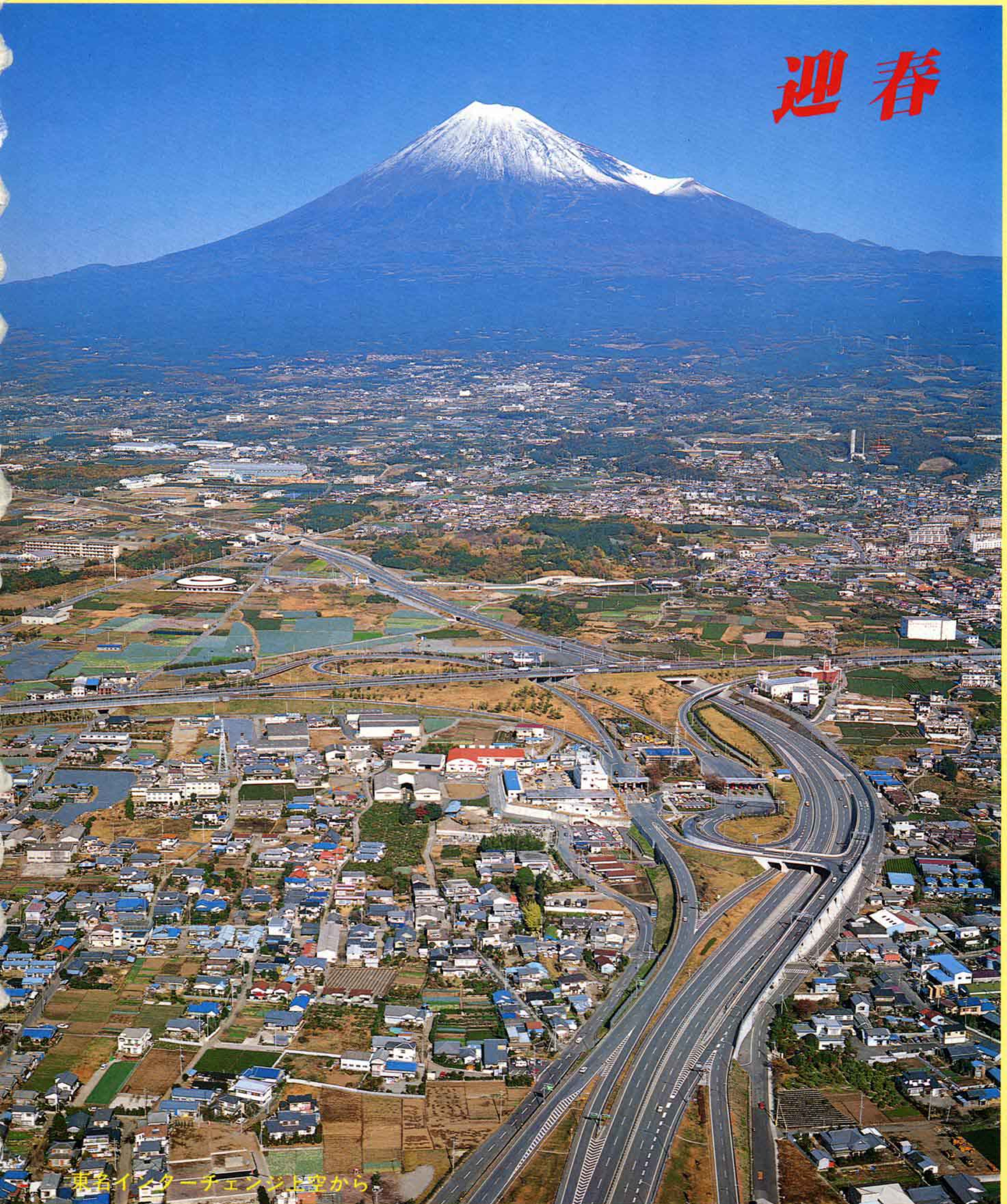


広報 **心じ**

昭和60年元旦

No. 402

迎春



東名インターチェンジ上空から

雁堤



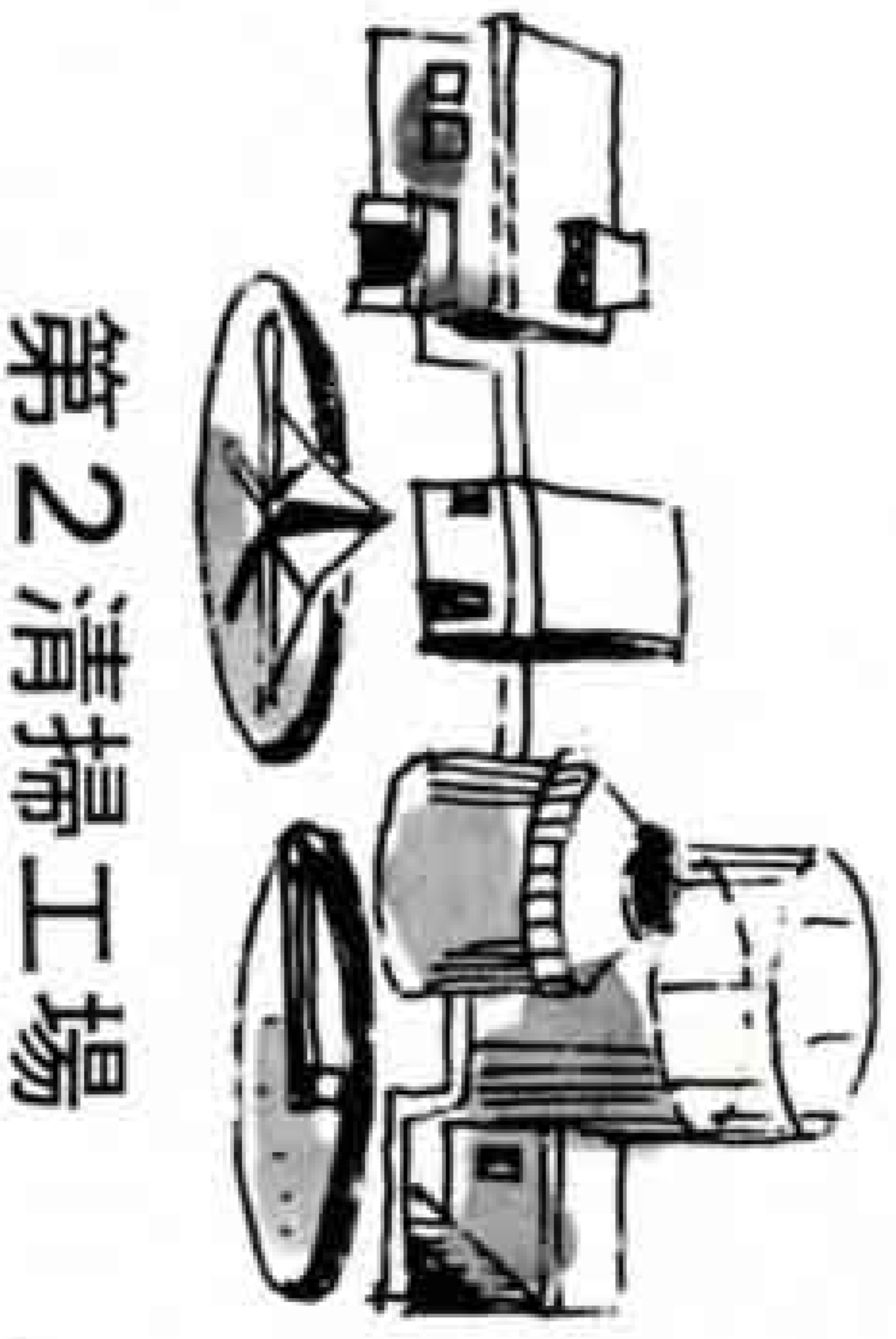
1
回
み

富士市民憲章
 土に生きるわたしたちは、歴史と伝
 いけつぎ、明日におかつて、豊かな産
 文化のまかづつをすすめるため、
 土のまかづつを、だかに助け合います
 土のまかづつを、美しい
 自然を愛し、きれいな環境をつります
 土のまかづつを、高い
 教養を深め、視野のひろい市民と
 なります
 土のまかづつを、たくましく
 土のまかづつを、たくましく
 土のまかづつを、たくましく
 土のまかづつを、たくましく



富士川緑地公園

ソフトボールの
試合で1回休み



第2清掃工場



西部浄化センター

2
も
と
る

冬休みの宿題をやるため
図書館へ行く



田子の浦港



文化センター
市民会館

民俗資料館



広見公園

市立博物館



中央

公設卸売市場



くすの木学園



消防署



駿河



瀬川



第1 清掃工場



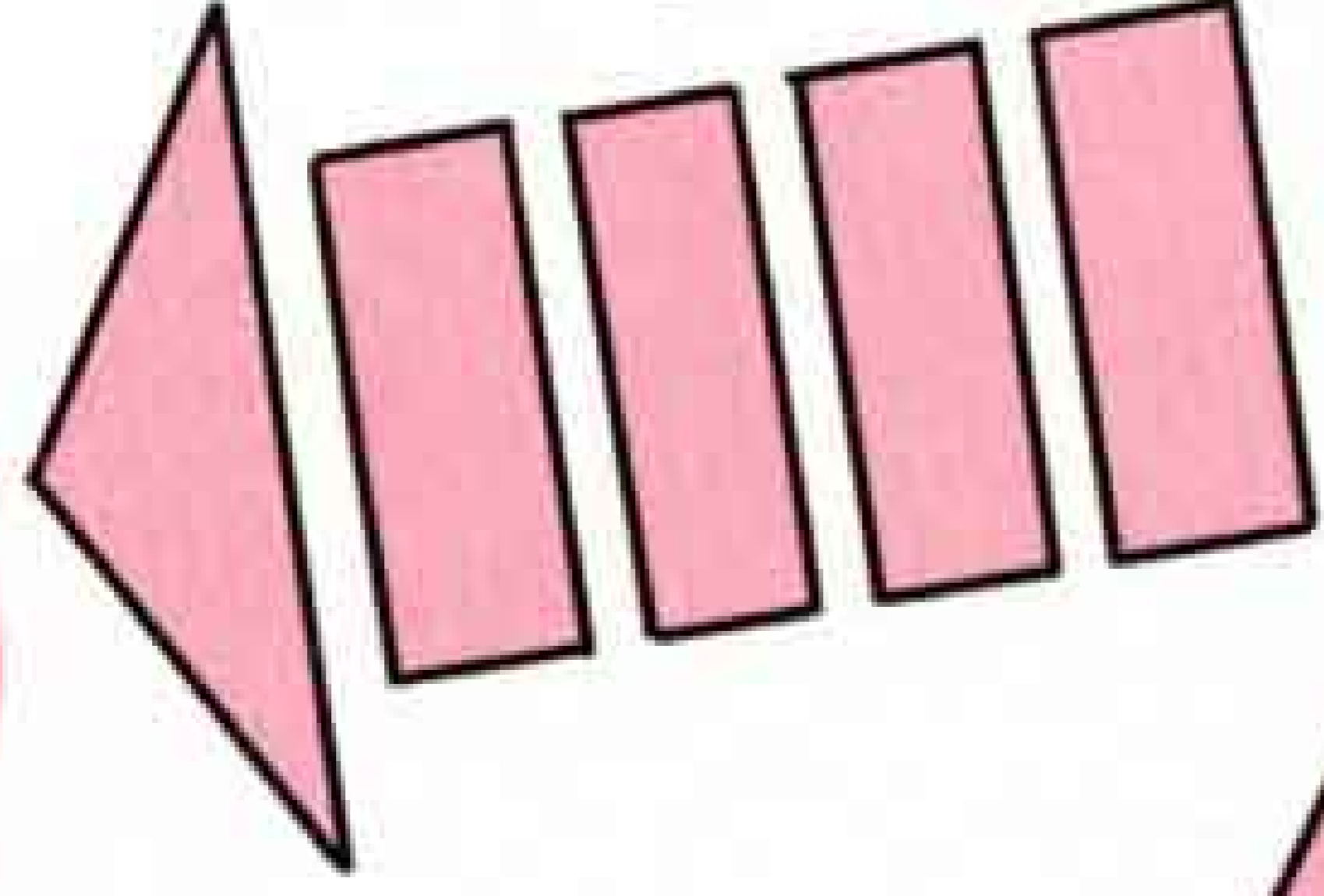
入院でふりだし
へもどる



ふりだし
くもどる



図書館



ここでと
まるとよ
すむ

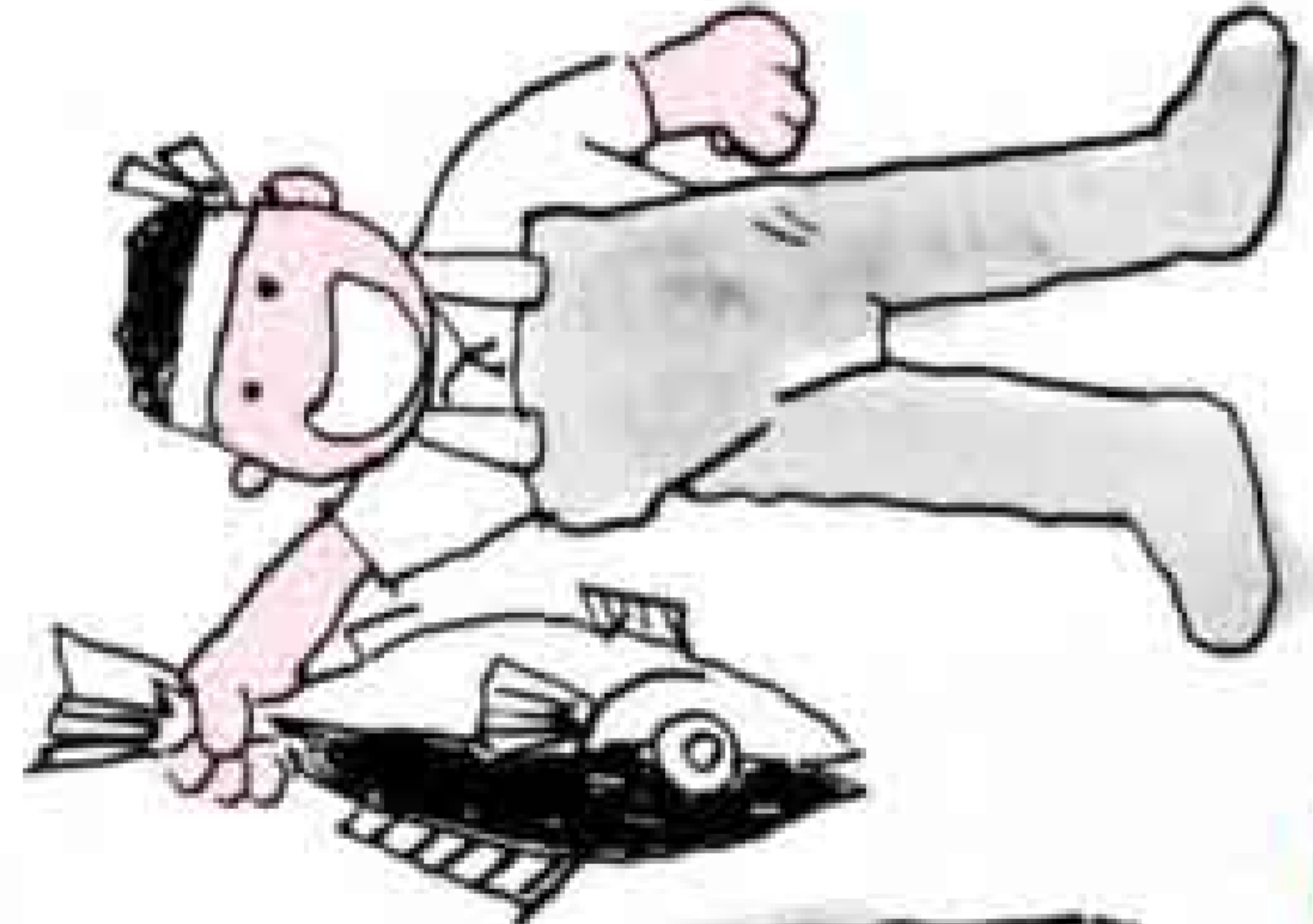
潤井川大橋開通で第1
清掃工場へすすむ



潤井川大橋



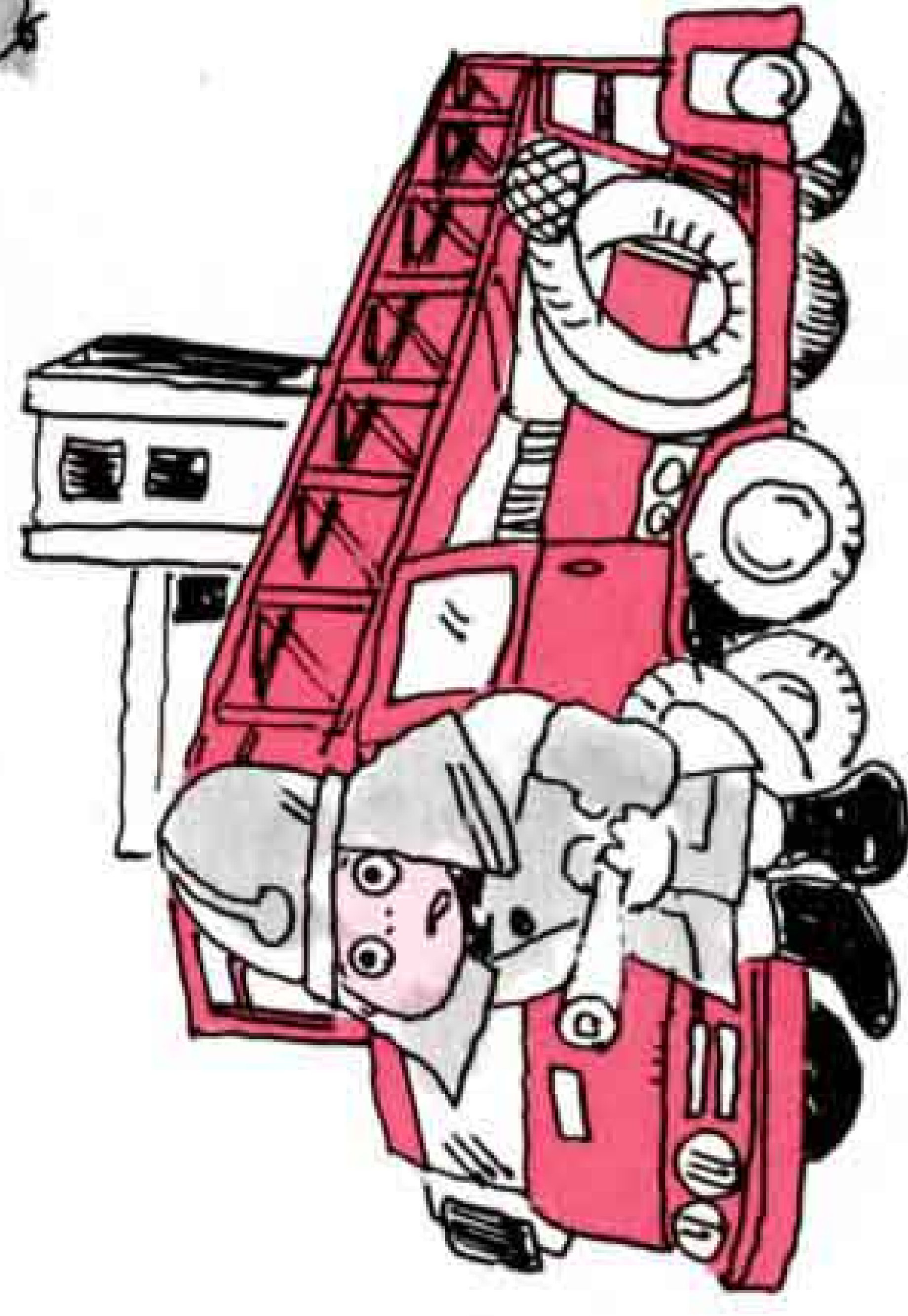
公設卸売市場



市民プール



市役所



消防署

駿河荘



ふりだし



元気にスタート

庄

中央病院



丸火自然公園



広見公園



新幹線富士駅



さあ出発進行!



名峰富士山のふもとに、念願の東海道新幹線富士駅が昭和62年の開業を目指して出発するよき年でもあります。

新駅実現のために皆様の英知を結集し、「日々新たに」の気持ちで邁進してまいります。本年も皆様の温かいご支援ご協力をお願い申し上げます。 昭和60年 元旦

富士市長 渡辺彦太郎

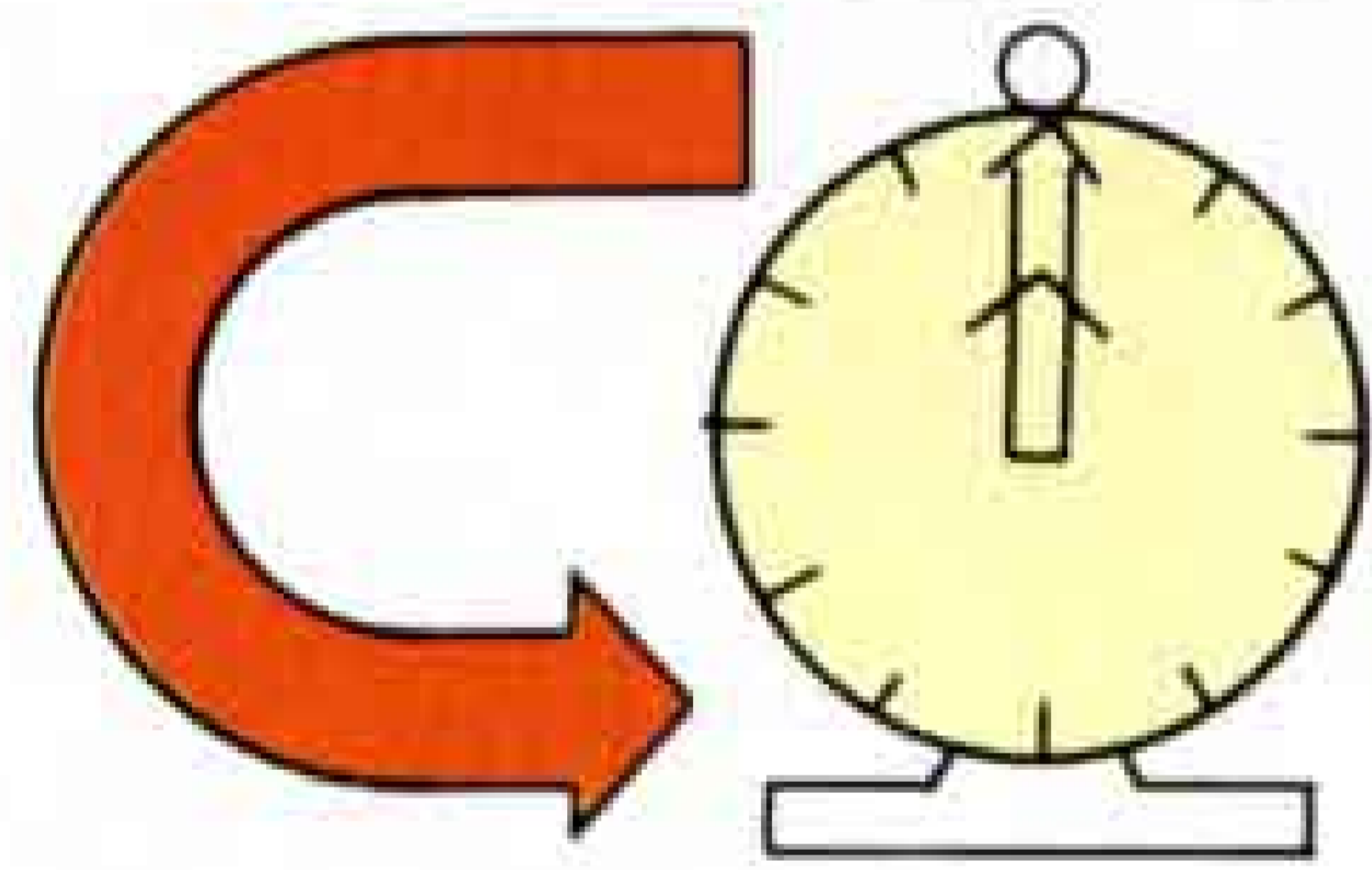


富士市の21世紀に向けての展望は、新幹線駅によって開かれていくものと期待しています。市民の皆様方のご協力をお願い申し上げます。私たち議員一同、決意を新たにして市勢の発展と市民の幸福のため、頑張っております。本年もよろしくようお願い申し上げます。 昭和60年 元旦

富士市議会議長 加藤昌一

グ〜ンと近くなる東京・名古屋間

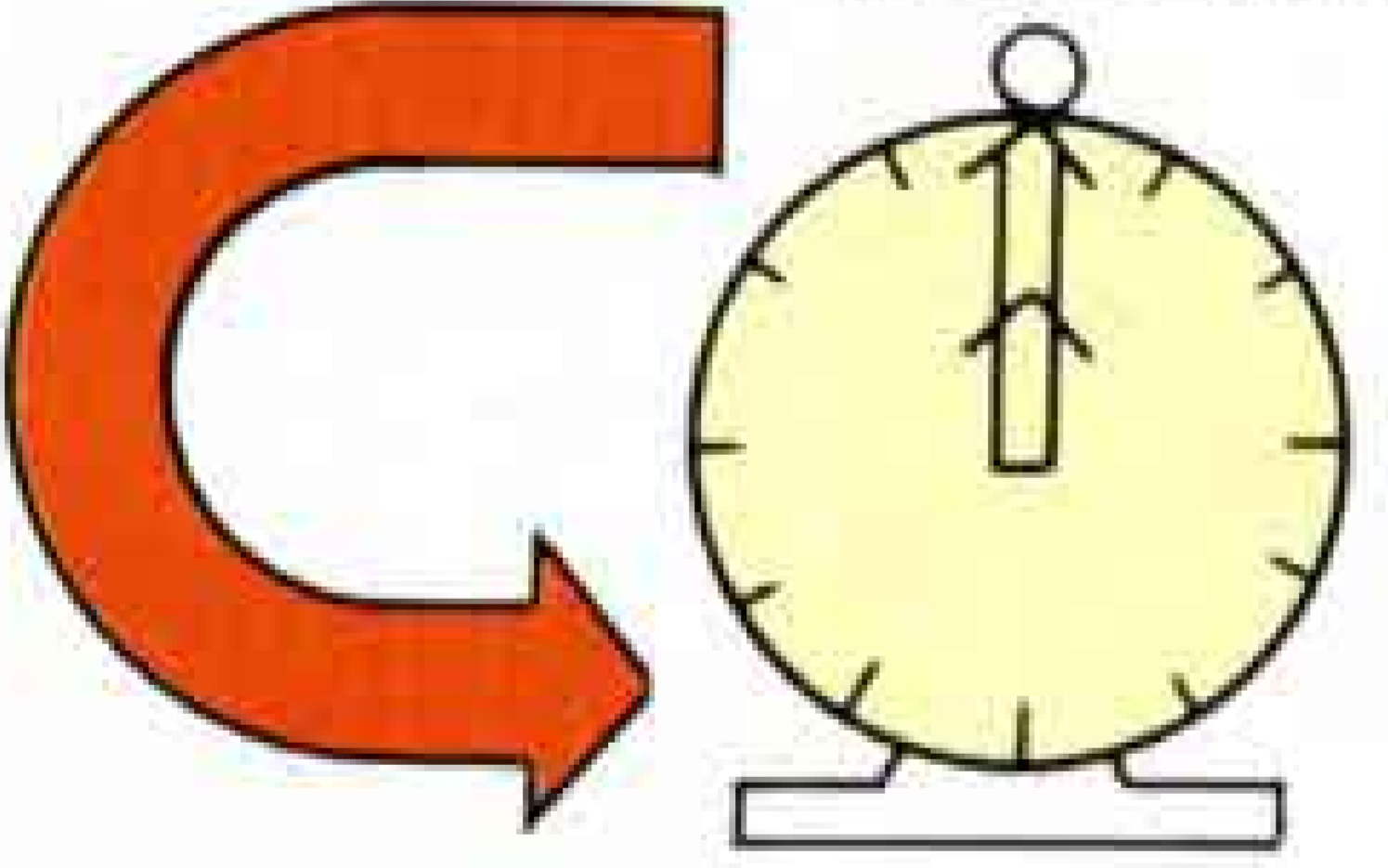
富士駅から東京まで 新幹線富士駅 現在



1時間19分

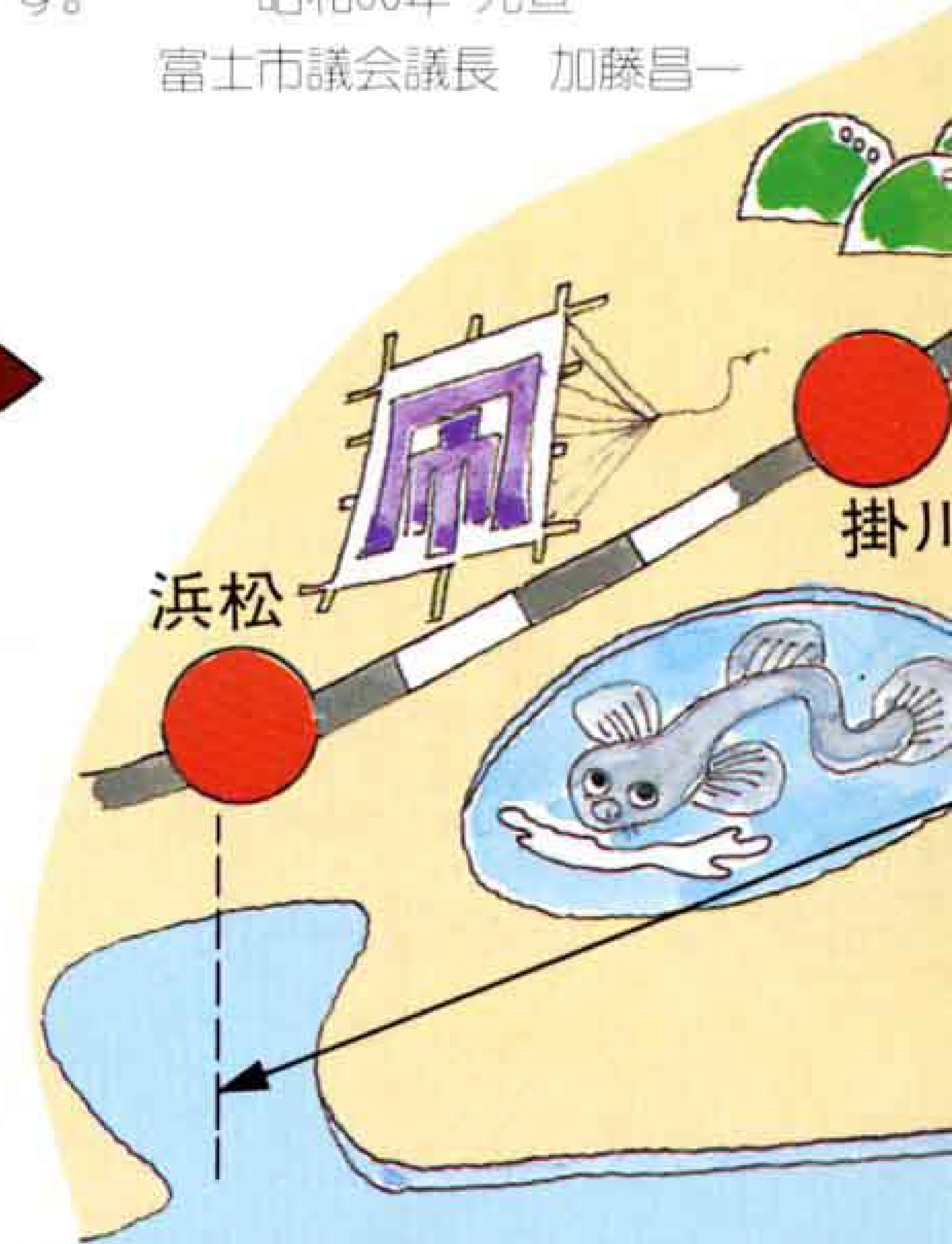
2時間 (三島駅で乗りかえ)

富士駅から名古屋まで



1時間34分

2時間17分 (静岡で乗りかえ)



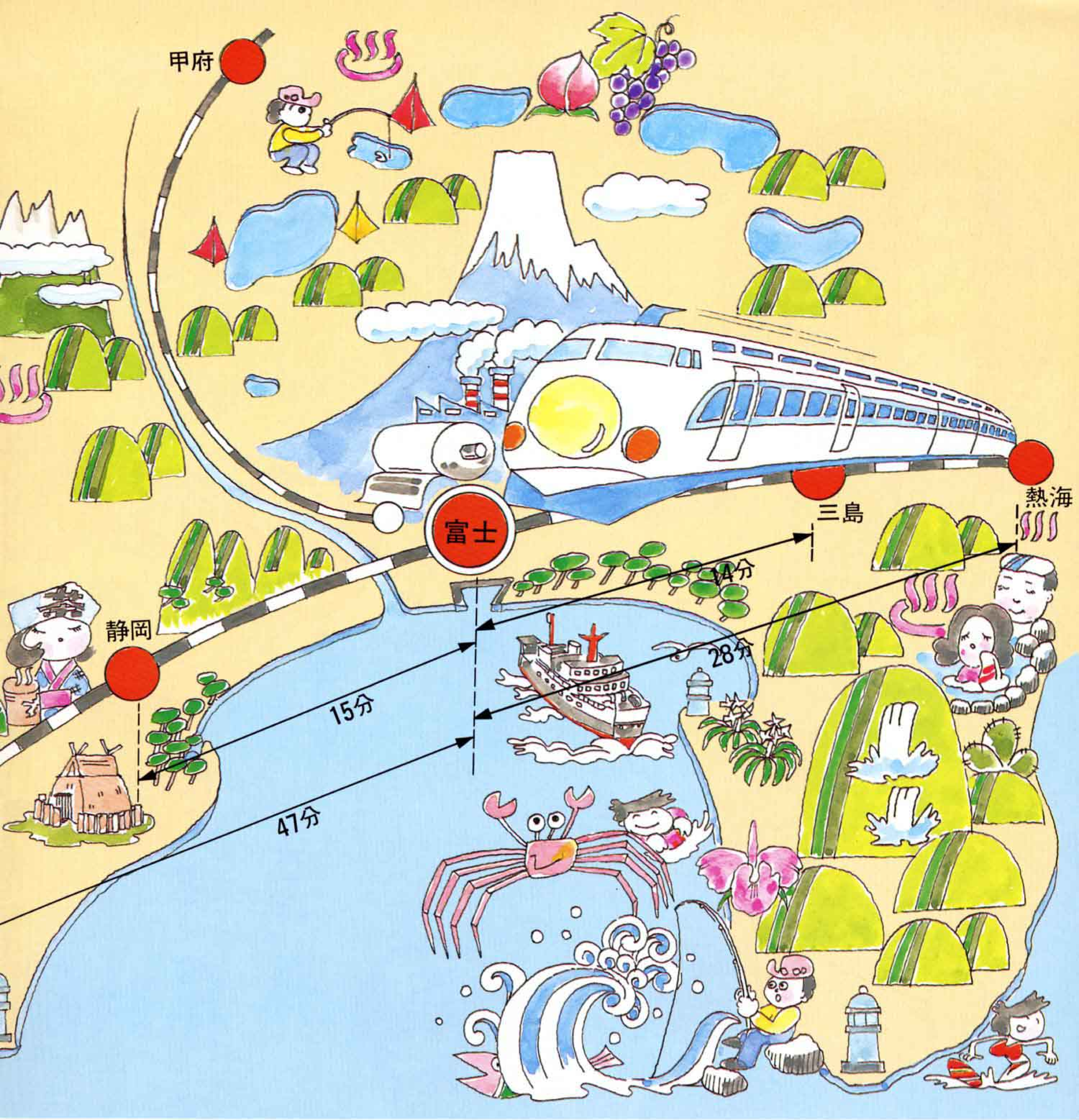
新幹線富士駅は産業・文化・観光の発展に大きな期待が寄せられています。(写真提供 瀧 正さん 広見本町)



本栖湖



花鳥山脈



あがり

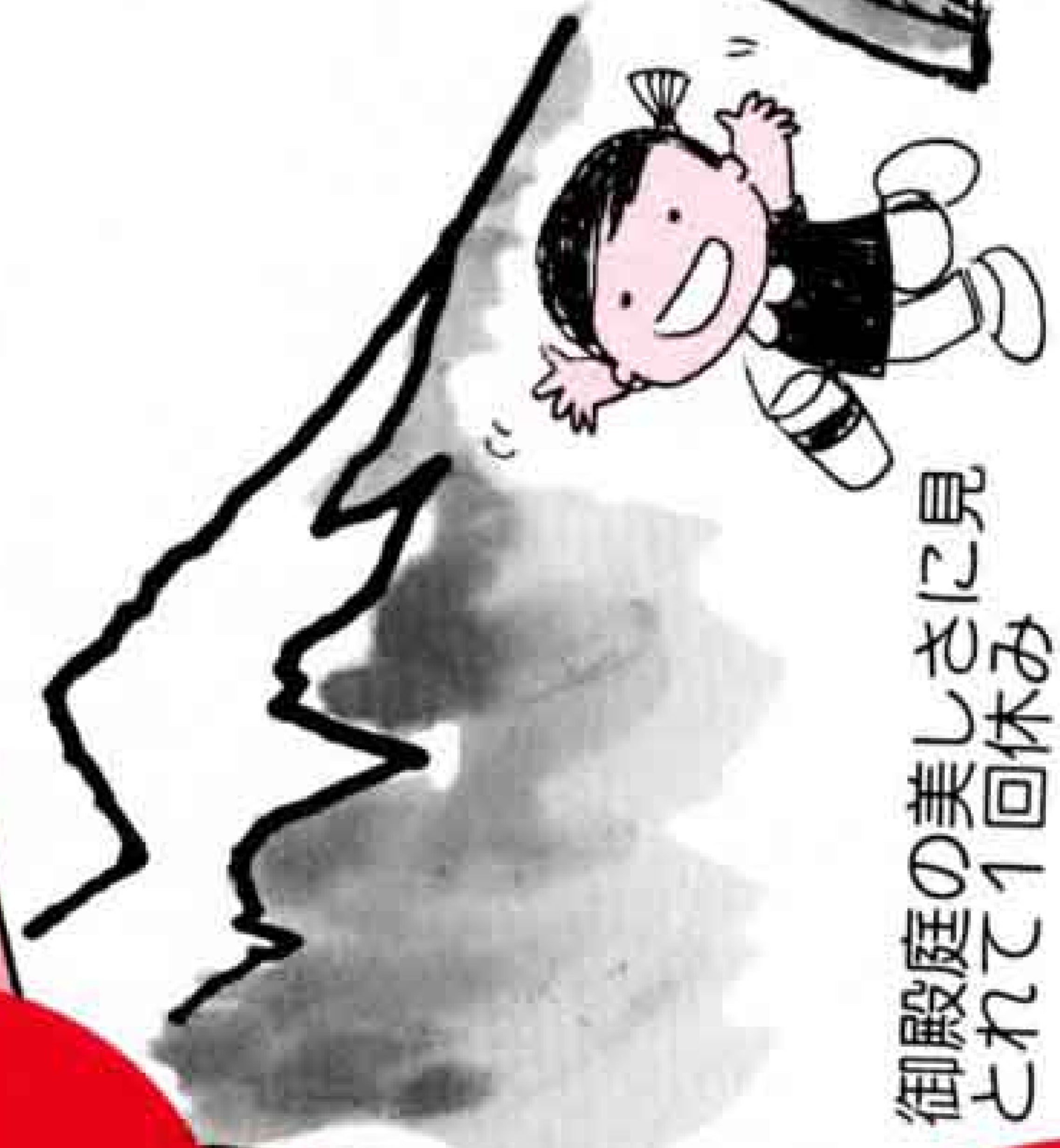
ぴったりの数が出なくても、あがれます。

を留意して
口を振り、
の指示に

警戒宣言は
15秒を45秒
返します



愛鷹連峰



御殿庭の美しさに見
とれて1回休み

丸火公園でお昼を食べる
ので1回休み

1回休み

丸火自然公園



自然館

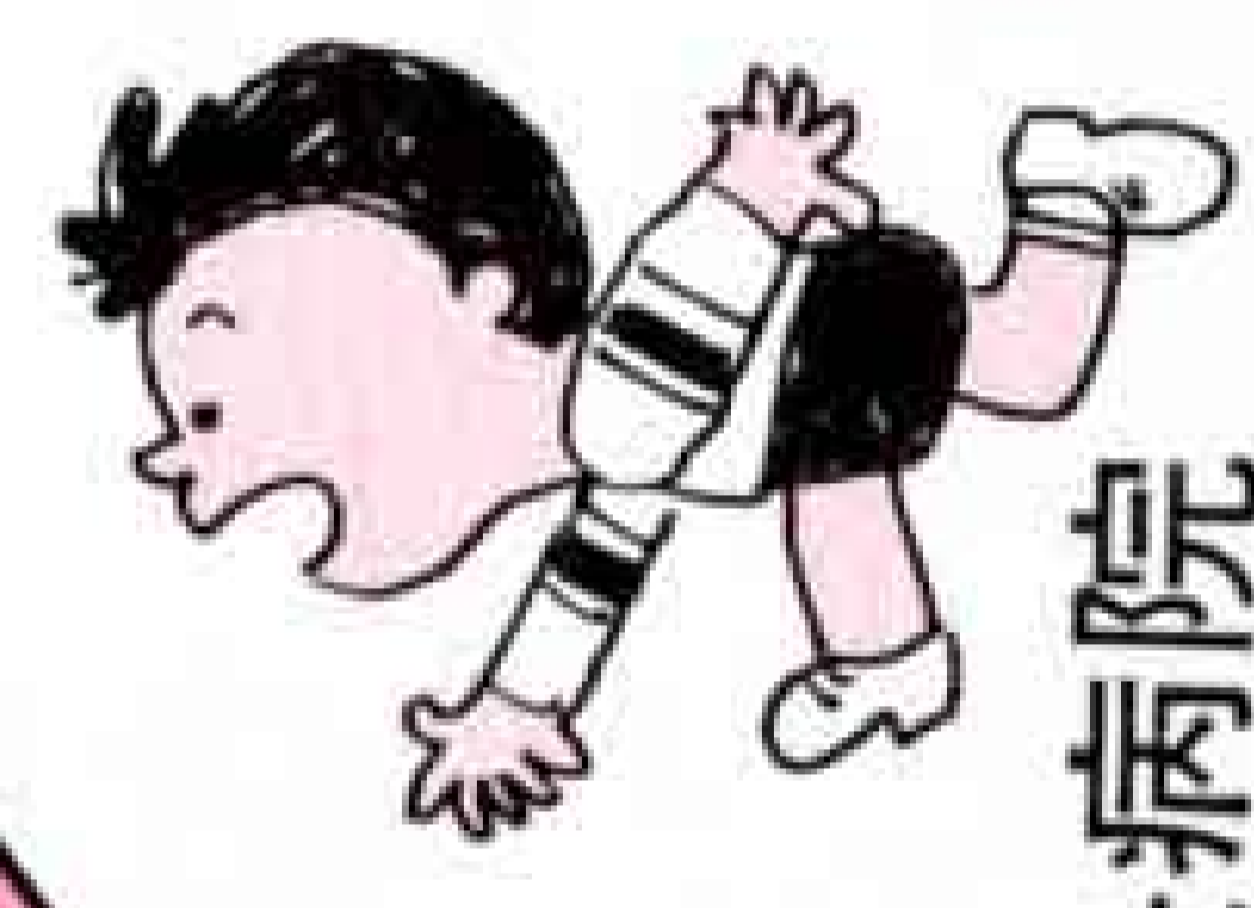
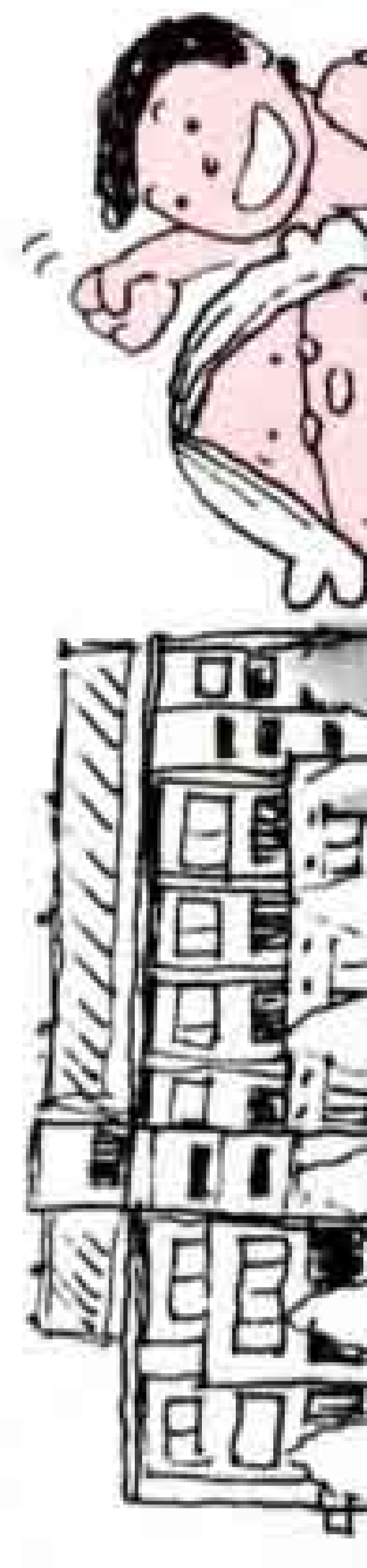
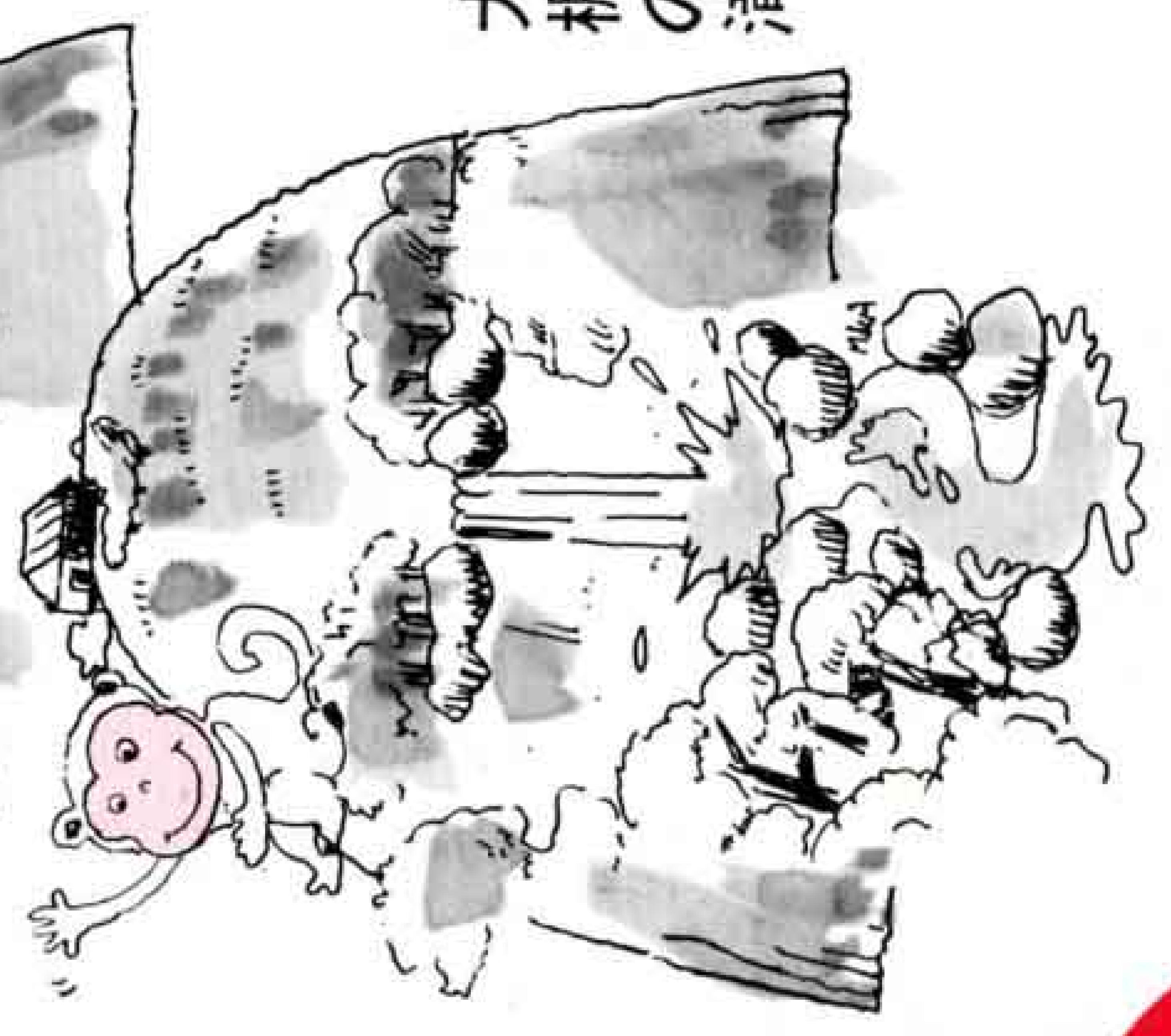
1回休み

総合育精施設
そびなやま学園
くすの木学園

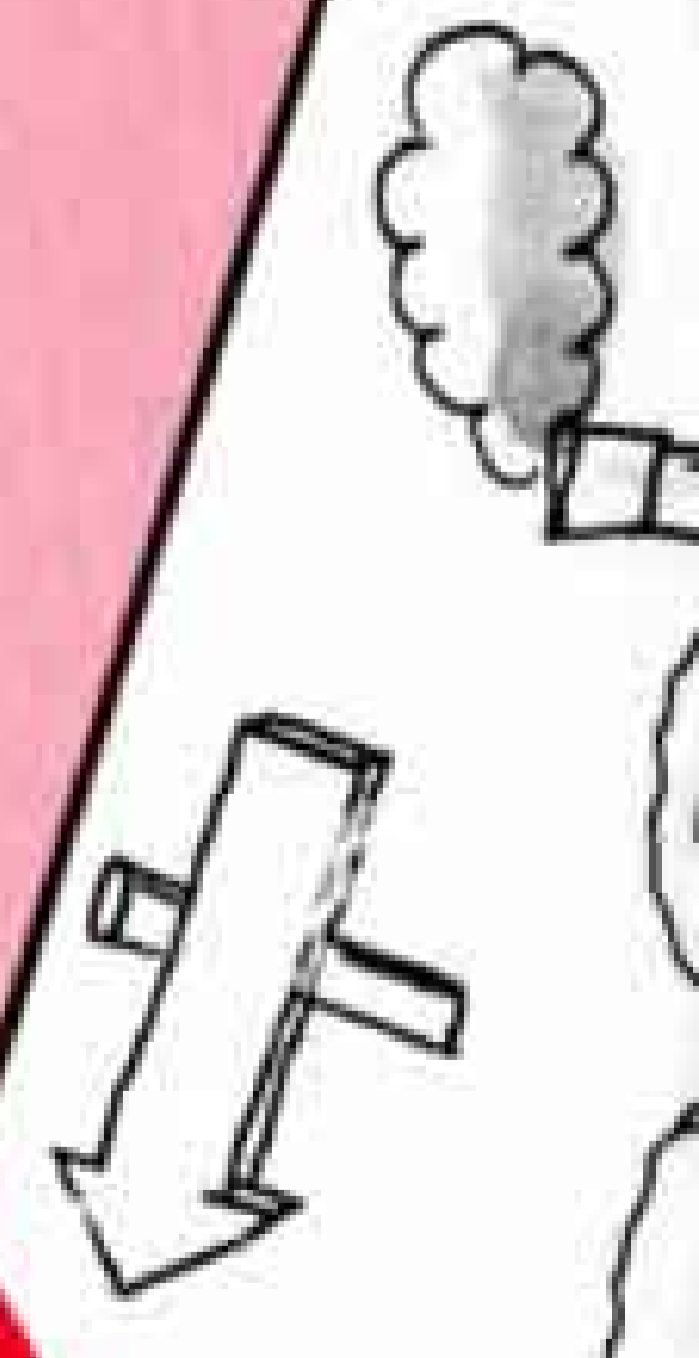


少年自然の家

大棚の滝



中央病院



遊び場めぐりゲーム

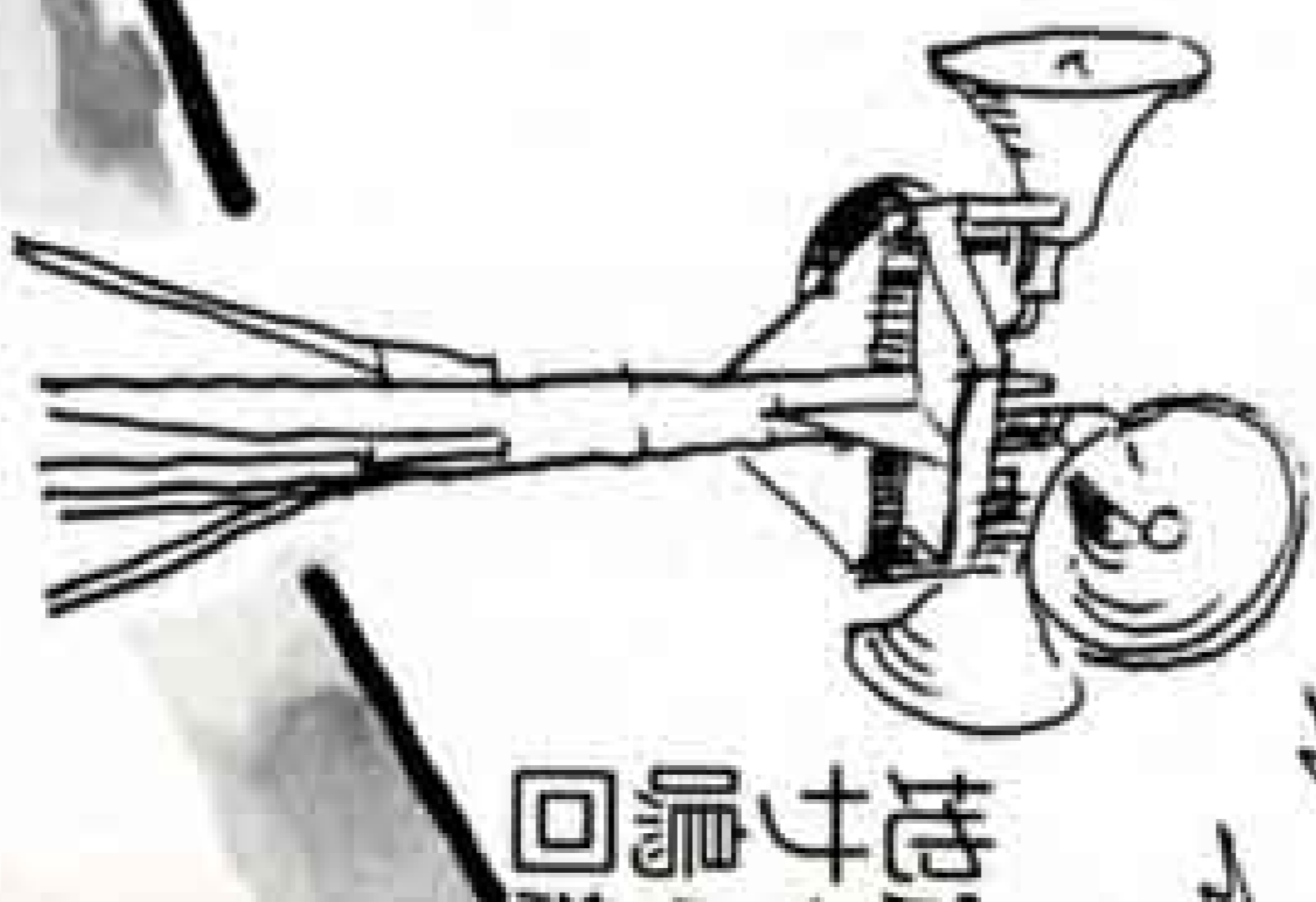
市は市民のみなさんに、市の公共施設を知っていただくため、サイコロバス(18人乗り)で「公共施設めぐり」を実施しています。

今回は、市のいろいろな施設を居ながらにして知っていただくために、「公共施設めぐりすごろくゲーム」をつくってみました。どうぞ、ご家族でお楽しみください。

あそび方

2人以上で遊びます。サイコロとゲームボードをご用意ください。ふりだしから、順番にサシだ目の数だけ進みます。とまった施設は、あがりの行くと勝ちです。

こちらは
広報ふじです



地声鳴回



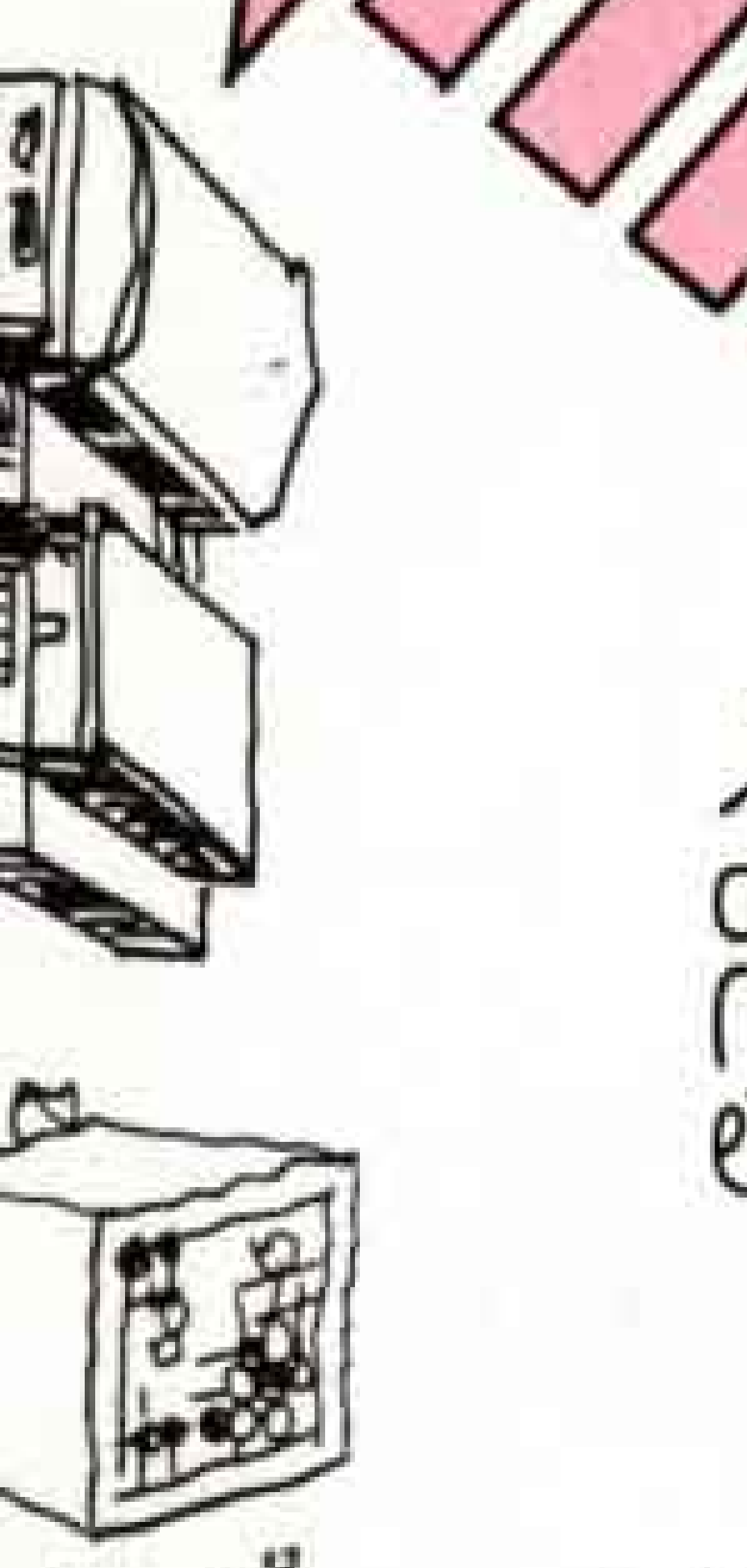
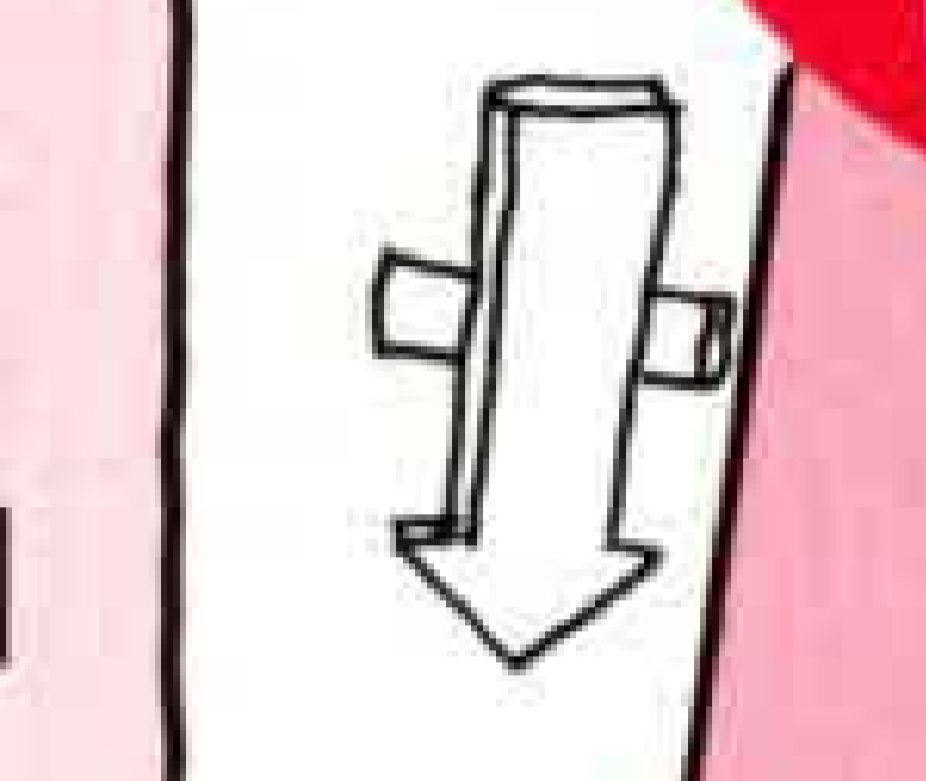
総合運動公園

ここで遊ぶと

忘れものをしたので民俗資料館へもどる

ここをすごす

市民憲章を声を出して読んでから2つすごす



ふるさとの昔話

大淵の雨ふり山



大淵の大坂に「雨ふり山」といわれているところがあります。この山へはいった者は雨に降られて、逃げ帰ってくる事が多く、村の人々からいつからともなく「雨ふり山」と呼ばれるようになったということです。

山にはいると大雨が

ある年の秋、働き者だと評判の若者が山へ仕事に出かけました。

まだ一度もはいったことのない山へはいり、仕事にかかろうとすると、薄気味悪い雲が空を覆い大粒の雨が降り出しました。若者は急いで道具を片づけると、雨がやみ青空が見えてきました。「これはよかった」とまた仕事にかかると、さつきより強い雨が降ってきました。

若者はなおも仕事を続けると、今度はすさまじい雷と大雨と一緒にやってきました。若者は驚いて一目散に山を逃げ出しました。村人たちは若者の話を聞いて「そんなばかなことがあるものか」と笑いました。二、三日たって、村人の一人がその山に

はいったところ、やはり雨に降られて逃げ帰りました。こんなことが繰り返されているうちに、いつか雨ふり山と呼ばれるようになりました。

言い伝えの看板を



武口美由紀さん

郷土のことをもっと知ろうと、2年前、雨ふり山の言い伝えを書いた看板を現地に立てた「ふじもとみどりの少年団」の少年団の武口美由紀さん(大淵二小6年)は「地元にもこんなおもしろい言い伝えがあつたんだなあ」と知り、改めて郷土のことに興味を持ちました」と語っていました。

地名の由来

えのお
江尾



江という字は入江という意味があります。江尾村は、浮島沼の入江の奥だから、入江の尾という意味で江尾と呼んだものです。部落の中を流れる江川の江は、江尾の江からつけたものでしょう。

江尾の万騎沢は、天正7年武田勝頼が北条氏と戦ったとき、数万の武田軍がこの付近にたむろしたので、この名がついたものです。

古墳のはなし 12

古墳と祖先の生活



古墳時代の武器

古墳時代には武器が発達し、多くの種類の武具がつくられました。弓矢、剣などの攻撃的な武器が主だった弥生時代に対し、古墳時代にはよろいやかぶなどの防御的な武器もつくられ、武具がほぼ完成した時代です。

攻撃用としては主に太刀、弓矢、槍が使われていました。

太刀は刀身が真っすぐな直刀で柄、鐔、鞘などに飾りをつけたものがあります。特に柄の端につく柄頭は特徴的で、その形によって環頭太刀、方頭太刀、円頭太刀、頭椎太刀などがありました。弓矢は今のものとは異なる丸木弓で、長さ2倍ほどの長弓と1倍ほどの短弓があります。矢は丸木や竹製で全長80~85センチで矢の尻には2~4枚の矢羽根をつけ、先端には鉄製の鏃がつけられています。鏃には先のとがった尖根式、三角形や五角形の平根式などがあります。

こちら編集室

あけましておめでとうございます。今年(うし)は丑年、モウ烈に生きるもよし、のんびりと人生を反芻しながら生きるもよし、ともかくお互いに、角をつき合わさずに仲よく暮らしたいものです…。